

平成27年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

2017

印西市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成27年度に国庫補助金を受けて調査を実施した印西市グミ作遺跡（第2地点）、アラク山遺跡、大畑遺跡（第3地点）、鳴神山遺跡（第2地点）、打手第2遺跡（第3地点）、馬場遺跡（第9地点）、榎木作遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は印西市教育委員会生涯学習課が実施し、整理作業及び原稿執筆は、印西市より委託を受けた公益財団法人 印旛都市文化財センターが行った。
3. 調査組織は以下の通りである。

発掘調査（平成27年度）

調査主体	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	湯浅静夫	印西市教育委員会生涯学習課長
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化班主査
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任学芸員（調査担当者）

整理作業・原稿執筆（平成28年度）

調査主体	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	飯島伸一	印西市教育委員会生涯学習課長
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化班副主幹
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任学芸員

調査受託者 茅野達也 公益財団法人印旛都市文化財センター代表理事

整理担当者 小牧美知枝 公益財団法人印旛都市文化財センター調査課嘱託調査研究員

4. 調査を実施した遺跡は次の通りである。以下、(1) 所在地、(2) 調査の種別、調査面積、調査期間、(3) 調査にいたる経緯についての概要を記す。

グミ作遺跡（第2地点）（コード番号09-097）

(1) 印西市瀬戸字大木台555番29 (2) 確認調査・上層 35.7㎡/350.37㎡、平成27年4月16日 (3) 個人住宅建設の工事に先立って文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財の発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡の内容確認等のために、確認調査を実施した。

アラク山遺跡（コード番号09-098）

(1) 印西市鹿黒字アラク462番の一部 (2) 確認調査・上層 61㎡/500㎡、平成27年5月22日 (3) 個人住宅建設工事に先立って文化財保護法第93条に基づく発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、遺跡の内容確認等のために確認調査を実施した。

大畑遺跡（第3地点）（コード番号09-099）

(1) 印西市大森字前畑2000番9、2000番5の一部 (2) 確認調査・上層 25.75㎡/268.43㎡、平成27年6月22日 本調査・上層 63㎡ 平成27年7月13日～7月24日 (3) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条に基づく発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡の内容確認等のために確認調査を実施した。その結果を受け、遺構に影響を及ぼす範囲について本調査を行い、記録保存を実施した。

鳴神山遺跡（第2地点）（コード番号09-100）

(1) 印西市戸神1037-1 (2) 確認調査・上層 240㎡/1,404㎡、平成27年9月24日～9月28日 (3) 宅

地造成に先立って文化財保護法第93条に基づく発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡の内容確認等のために、確認調査を実施した。

打手第2遺跡（第3地点）（コード番号09-101）

(1) 印西市山田字打手3415番1 (2) 確認調査・上層 36.5㎡/209.88㎡、平成27年10月22日 (3) 個人住宅建設の工事に先立って文化財保護法第93条に基づく発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡の内容確認等のために、確認調査を実施した。

馬場遺跡（第9地点）（コード番号09-102）

(1) 印西市小林字花作2652番 (2) 確認調査・上層 49㎡/314㎡、平成27年11月26日 (3) 個人住宅建設の工事に先立って文化財保護法第93条に基づく発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡の内容確認等のために、確認調査を実施した。

榎木作遺跡（コード番号09-103）

(1) 印西市瀬戸字鴻巣1840番の一部、1841番の一部 (2) 確認調査・上層 28㎡/571.87㎡、平成28年2月2日 (3) 太陽光発電施設の設置に先立って文化財保護法第93条に基づく発掘届が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、遺跡の内容確認等のために、確認調査を実施した。

5. 本書に使用した写真は、遺構が調査担当者、遺物は有限会社 スギハラに委託して撮影した。
6. 出土遺物及び図面・写真は、印西市教育委員会が保管している。
7. 発掘調査から報告書刊行まで、下記の機関のご指導・ご教授を賜った。（敬称略・順不同）
文化庁・千葉県教育庁教育振興部文化財課

凡 例

1. 遺構番号は原則として発掘調査時の番号を踏襲し使用した。
2. 第1図は、国土地理院発行の1/25,000「小林」、第2図は同じく1/25,000「小林」「龍ヶ崎」、各遺跡の地形図は印西市発行1/2,500「印西市基本図」を使用した。
3. トレンチ配置図、及び遺構配置図・遺構図面等の方位は磁北を表す。
4. 遺構及び遺物実測図の縮尺は、基本以下の通りである。
遺構 トレンチ設定図 1/400・1/300、土坑 1/80
遺物 縄文土器 1/3 土師器・陶器 1/4 石器 1/3・1/5 土製品 1/2を基本とする。
5. 遺物観察表の数値は、() が推定値、<>が現存値を示す。



本文目次

例言

凡例

第1章	はじめに	1
1.	道跡の位置と周辺道跡	1
第2章	グミ作道跡(第2地点)	6
1.	道跡の位置	6
2.	調査の概要と成果	6
第3章	アラク山道跡	7
1.	道跡の位置	7
2.	調査の概要と成果	7
第4章	大畑道跡(第3地点)	8
1.	道跡の位置	8
2.	確認調査の概要と成果	9
3.	検出された道橋と遺物	10
第5章	鳴神山道跡(第2地点)	11
1.	道跡の位置	11
2.	調査の概要と成果	12
第6章	打手第2道跡(第3地点)	13
1.	道跡の位置	13
2.	調査の概要と成果	13
第7章	馬場道跡(第9地点)	14
1.	道跡の位置	14
2.	調査の概要と成果	15
第8章	榎木作道跡	16
1.	道跡の位置	16
2.	調査の概要と成果	16
第9章	まとめ	17

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡(1) ……………	2	第11図	鳴神山遺跡(第2地点)位置図……………	12
第2図	周辺遺跡(2) ……………	2	第12図	トレンチ設定図・出土遺物……………	12
第3図	グミ作遺跡(第2地点)位置図……………	6	第13図	打手第2遺跡(第3地点)位置図……………	13
第4図	トレンチ設定図・出土遺物……………	6	第14図	トレンチ設定図・出土遺物……………	13
第5図	アラク山遺跡位置図……………	7	第15図	馬場遺跡(第9地点)位置図……………	14
第6図	トレンチ設定図・出土遺物……………	7	第16図	トレンチ設定図・出土遺物……………	15
第7図	大畑遺跡(第3地点)位置図……………	8	第17図	榎木作遺跡位置図……………	16
第8図	トレンチ設定図……………	8	第18図	トレンチ設定図……………	16
第9図	第3地点全測図……………	9	第19図	天王前遺跡(第2次)2号墳出土遺物…18	
第10図	出土遺物……………	10			

表 目 次

第1表	グミ作遺跡(第2地点)遺物観察表……	6	第4表	鳴神山遺跡(第2地点)遺物観察表……	12
第2表	アラク山遺跡遺物観察表……………	7	第5表	打手第2遺跡(第3地点)遺物観察表…14	
第3表	大畑遺跡(第3地点)遺物観察表……11		第6表	馬場遺跡(第9地点)遺物観察表……15	

図 版 目 次

図版1	グミ作遺跡(第2地点) 1トレンチ(南から) 2トレンチ(南から) 3トレンチ(南から) 8トレンチ(東から)、アラク山遺跡 1トレンチ(西から) 2トレンチ(東から) 3トレンチ(東から) 9トレンチ(東から)、大畑遺跡(第3地点)調査前風景 3トレンチ(北から) 5トレンチ(北から) 本調査範囲(西から) 1号土坑Aセクション(南西から) 1号土坑完掘(南東から) 2号土坑完掘(西から)
図版2	鳴神山遺跡(第2地点)調査前風景 2トレンチ(北東から) 5トレンチ(南西から) 6トレンチ(北東から) 7トレンチ(南西から) 8トレンチ(北東から) 11トレンチ(南西から) 13トレンチ(南西から)、打手第2遺跡(第3地点)調査前風景 3トレンチ(南東から) 4トレンチ(南東から) 5トレンチ(南東から) 6トレンチ(南東から)、馬場遺跡(第9地点)調査前風景 2トレンチ(南から)
図版3	3トレンチ(南から) 4トレンチ(南から) 5トレンチ(南から) 6トレンチ(南から) 7トレンチ(南から)、榎木作遺跡調査前風景 1トレンチ(東から) 2トレンチ(西から) 3トレンチ(東から) 出土遺物(1)
図版4	出土遺物(2)・(3)

第1章 はじめに

1. 遺跡の位置と周辺遺跡 (第1・2図)

今回報告するグミ作遺跡 (第2地点) (1)、アラク山遺跡 (2)、大畑遺跡 (第3地点) (3)、鳴神山遺跡 (第2地点) (4)、打手第2遺跡 (第3地点) (5)、馬場遺跡 (第9地点) (6)、榎木作遺跡 (7) の位置及び周辺の調査事例について説明したい。

これらの遺跡は茨城県との県境、利根川南岸の千葉県印西市に所在する。同市は北の利根川と南の印旛沼に挟まれた東西に長い市域で、市の西部には平坦な北総台地が大きく広がり、東には印旛沼に向かって細く長い台地が南東方向に伸びる。このうちグミ作遺跡・打手第2遺跡・榎木作遺跡は市域東部の瀬戸・山田地区、アラク山遺跡・大畑遺跡・馬場遺跡は北部の鹿黒・大森・小林地区、そして鳴神山遺跡は南西部の戸神地区に所在する。それらは印旛沼や利根川などによって開析された台地上に立地し、眼下には河川や湖沼によって作り出された谷津田が広がる。こうした地形を利用して旧石器時代から中世に至る多数の遺跡群が、本地域には分布する。そのなかから今回の遺跡と関係する、弥生時代後期以降の遺跡について取り上げたい。

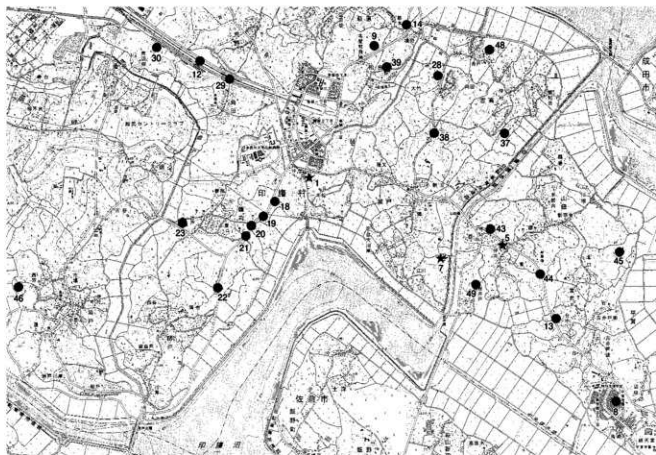
弥生時代後期の遺跡で、10軒以上の堅穴住居跡が検出されたやや規模の大きな集落は、市域東部では平賀遺跡群 (8) の一ノ台遺跡、萩原地区の萩原長原遺跡 (9)、西部では天神台遺跡 (10)・船尾白幡遺跡 (11)、そして両者の中間地区では角田台遺跡 (12) などである。これらは印旛沼北岸の台地上を東西・南北の飛び石状に分布し、東部は印旛沼沿岸、西部は印旛沼・手賀沼水系、中間地帯は沼から台地奥部への入口に位置する。こうしたやや規模の大きな集落の周囲には、小規模な集落が展開するようである。例えば平賀遺跡群の近接地には井ノ崎台遺跡 (13)、萩原長原遺跡には萩原株木遺跡 (14)、天神台遺跡周辺には大畑遺跡・曾谷窪遺跡 (15)、船尾白幡遺跡には鳴神山遺跡 (16)・武西近隣遺跡 (17) などである。それにたいしグミ作遺跡西側の鎌苅地区では炭焼2号墳 (18)、鎌苅遺跡 (19)、滝尻遺跡 (20)、前原1遺跡 (21)、ちほろ遺跡 (22)、古山遺跡 (23) などすべてが5軒以下の小集落である。同様な状況は吉高・岩戸・小林地区でも見られ、本地域の弥生時代後期は大・小異なる規模の集落群で構成される地区と小規模集落群のみの地区が併存するように思われる。はたしてそれがこの時期の集落の実像なのかは限定的な調査では確実性が低く、今後の更なる調査や検証に求められよう。

なお弥生時代中期後半については、西部松崎地区の中郷遺跡 (24) から住居跡1軒が報告され、同時期の土器片が西根遺跡 (25) の流路からも出土している。該期の資料が非常に少ない市域において、中期後半の土器群が西部の地区から出土する点は、それ以後の集落動向との関連もあり注目される。

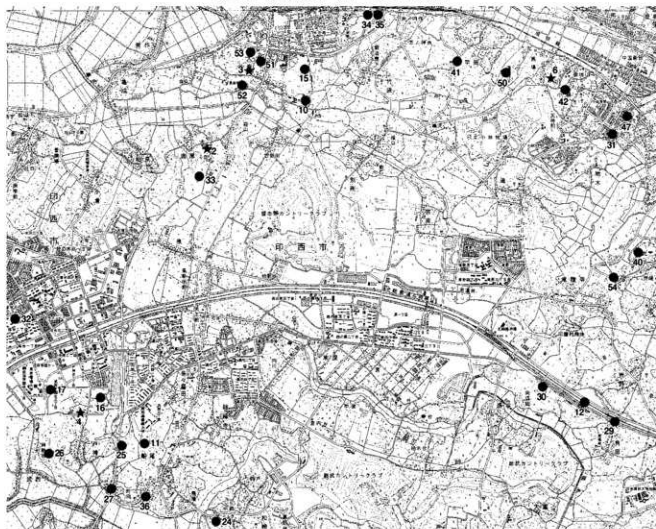
弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落動向も、僅かながら判明している。

後期から古墳時代前期の堅穴住居跡が検出されているのは、西部の鳴神山遺跡・向新田遺跡 (26)・船尾町田遺跡 (27)、東部の吉高浅間古墳 (28) の墳丘下、平賀遺跡群の一ノ台遺跡、角田台遺跡に近接する式ト込遺跡 (29)・向辺田遺跡 (30)、それに利根川合流部の小林遺跡 (31) などである^(註1)。前代とほぼ同じ3地区にくわえ、利根川と印旛沼の合流部、香取の海を意識した利根川南岸に新たな集落が登場する。さらには、集落規模も前代に比べ著しく拡大する状況が看取される。向新田遺跡では後期の約10倍の建物数が検出され、現時点では印旛沼北岸で最大規模の集落となる。

また、古墳時代になって突如として50軒以上の大規模集落が、戸神川中流の一本桜南遺跡 (32) やアラク山遺跡南の泉北側第2遺跡 (33) として登場する点も大きな変化である。前者は弥生時代から伝統的に集落が営まれていた地区、後者は弥生時代の集落が希薄な地域と異なるが、共に前期に出現し収束する短期集落である点で共通する。両遺跡より小規模だが、利根川に突出した竹袋地区にも前期集落、平台先遺跡 (34)



第1図 周辺の遺跡(1) (S=1/50,000)



第2図 周辺の遺跡(2) (S=1/50,000)

や井ノ内作遺跡(35)が存在する。利根川に面した台地の両端部に、前期集落が確認できる。印旛沼北岸では既存の地区に加え新たに内陸交通の要所、西の手賀沼を含めた香取の海南岸に、新たな拠点が形成される。一本桜遺跡や泉北側第2遺跡では東海西部の技法で製作された土師器甕や北陸地域の装飾器台を模倣した土器など特徴的な土器が出土し、出現の経緯を含め、外的要素が高い集落のように見受けられる。

中期になると前代とは異なる集落動向が、現れはじめる。前期に全盛を極めた市城西部で中期の住居跡が検出されているのは船尾町田遺跡・油免遺跡第2地点(36)の2遺跡である。両遺跡の間、西根遺跡でも流路から前期～中期の土器が出土しているが、西側における中期集落の減少傾向は明らかである。東部では平賀遺跡群、立田台第2遺跡(37)、堀尻第2遺跡(38)、松虫間所遺跡(39)、萩原長原遺跡、古山遺跡など多くの中期集落が確認されている。大半は1・2軒の小規模なものだが、吉高周辺に集中する状況が認められる。さらには利根川沿いの小林遺跡と吉高地区との間、中根地区の宮内遺跡(40)でも前期に引き続き中期に集落が営まれる。東部では規模の大きな一ノ台遺跡や仲ノ台遺跡を中心に吉高・松虫・中根・小林と印旛沼沿岸部に該期の集落が分布する状況が見られる。松虫間所遺跡では初期須恵器の器台、宮内遺跡では鉄器の鋤先が出土するなど、中期段階に北岸の中心は、西部から東部に移動したのではないだろうか。

古墳時代後期の集落は亀成川北岸の天神台遺跡を中心とする大森地区、東遺跡(41)などの平岡地区、それに馬場遺跡や駒形北遺跡(42)などの小林地区西側と、利根川南岸の台地上に広範囲に広がる。その他にも打手第2遺跡周辺の山田諏訪遺跡(43)、光明寺遺跡(44)、平賀細町(45)、岩戸地区の岩戸広台遺跡(46)など各地で確認される。ただ、現状では鹿黒・吉高・鎌苅・角田地区などで後期の住居跡が報告されていないが、それが調査数に起因するのか、その要因は不明である。

奈良時代以降集落はさらに拡大したと想像されるが、鹿黒など先の4地区では8世紀前半～中頃の住居跡がほとんど報告されていない。しかし鹿黒以外の地区では、9世紀になると新たな集落形成期を迎える。

以上が、調査から推測される印旛地区における弥生時代後期以降の集落動向である。

続いて市内で確認されている古墳について、説明したい。当地区では南西部の松崎地区で前期の方墳が報告されているが、規模の大きな古墳は知られていない。本格的な古墳築造は中期の鶴塚古墳(47)が最初である⁽²²⁾。径44mの大型円墳で、壺形埴輪・器台形埴輪が樹立された中期初頭の古墳としては、県内最大規模とされる。

それに続くのが中期後半の吉高浅間古墳(28)、立田台遺跡SM-02号墳(37)である⁽²³⁾。吉高浅間古墳は印旛地域において最初に馬具を副葬した古墳、立田台2号墳は5世紀後半代の埴輪樹立古墳として、その重要性が強く認識されている。共に吉高古墳群内の別支群に属する可能性があり、同古墳群内ではこれ以降も6世紀後半の前方後円墳吉高山王1号墳(48)を含め、多数の後期古墳が造墓されている。なお東部ではその他に、下総型埴輪が樹立されていた前方後円墳、山田谷々津古墳(49)が調査されている。

利根川沿いでは鶴塚古墳の南西に位置し、人物埴輪・馬形埴輪と共に滑石製薬玉・碧玉製管玉などが副葬された6世紀前半の円墳、小林1号墳(31)が築造される。小林地区ではその後、馬場遺跡西側の道作古墳群(50)が造墓を繰り返す。同古墳群は前方後円墳7基、円墳13基で構成される古墳群で、主墳の1号墳は墳丘長46mを測る前方後円墳である。下総型円筒埴輪を樹立することから6世紀後半代の築造と考えられ、印旛地区で埴輪が樹立された最後の前方後円墳であることが判明している。

一方南の戸神川流域にも前方後円墳1基、円墳2基のやや規模の小さな船尾町田古墳群が展開する。中心となる船尾町田2号墳(27)は主体部が絹雲母片岩の箱式石棺で、出土した鉄刀、石製玉類などから7世紀中葉以降の前方後円墳と想定されている。前方後円墳の築造が終了後、手賀沼と利根川の合流部には石室に

特徴的な石材貝化石を使用する古墳が数多く築かれる。代表的なものには横穴石室を埋葬施設とする上宿古墳(51)で、方墳の可能性が高いとされる。南西の大森古墳(52)、大畑道跡北側支谷の後庵山2号墳(53)なども同じ石材が用いられ、利根川南岸の限られた地域に、貝化石を使用する方墳群が分布する。その初源とされるのが、終末期最大の方墳岩屋古墳である。印旛沼西岸の集団は岩屋古墳を盟主とする龍角寺古墳群との関連性が極めて強いことが、特殊な石材を介して指摘されている。

註

1. 東部の吉高地区では、吉高山王1号墳の盛土中から古墳時代前期の甕や器台が出土している。同台地上に前期の住居跡が存在した可能性もあえる。その場合、吉高地区では吉高浅岡古墳と吉高山王1号墳の台地上に前期の集落が存在したこととなろう。
『吉高山王遺跡』1977年 吉高山王遺跡調査会
2. 鶴塚古墳は「下総鶴塚古墳の調査概報」では小林古墳群の一つとされている。しかし「遺跡分布図」では、利根川と印旛沼の合流部、台地東側縁辺部に立地するのが鶴塚古墳、その西側、支谷奥部印旛沼にそって東西方向に分布するのが小林古墳群と別個の表記がなされている。近接地に造墓されることから、両者は関連性があるのではないだろうか。
『下総鶴塚古墳の調査概報』1973年 下総鶴塚古墳調査団
『千葉県印旛郡印西市町域文化財分布地図』1983年 印西市町教育委員会
3. 立上台第2遺跡と思われる地点に、1977年時点で小規模な円墳が存在していたことがわかる。表記された古墳は吉高古墳群の第6支群とされ、仮にそれが立上台第2遺跡の古墳をさすのであれば、同古墳は広義の吉高古墳群に属する円墳と理解されるのではないだろうか。
『吉高山王遺跡』第16図 1977年 吉高山王遺跡調査会

遺跡及び文献一覧

1 クミ作遺跡	『平成26年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2016年 印西市教育委員会
クミ作遺跡(第2地点)	本報告書
2 アラク山遺跡	本報告書
3 大畑道跡	『平成16年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2005年 印西市教育委員会
大畑道跡(第2地点)	『平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2014年 印西市教育委員会
大畑道跡(第3地点)	本報告書
4 鳴神山遺跡(第1地点)	『平成25年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2015年 印西市教育委員会
鳴神山遺跡(第2地点)	本報告書
5 打手第2遺跡	『印旛村山田山平賀線予定地内埋蔵文化財調査報告書』 1994年 印旛郡市文化財センター
打手第2遺跡(第2地点)	『平成25年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2015年 印西市教育委員会
打手第2遺跡(第3地点)	本報告書
6 馬場道跡(第1地点)	『馬場道跡(第1地点) 北台塚』 2001年 印旛郡市文化財センター
馬場道跡(第2地点)	『馬場道跡(第2地点)』 2002年 印旛郡市文化財センター
馬場道跡(第3地点)	『平成16年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2005年 印西市教育委員会
馬場道跡(第4地点)	『平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2014年 印西市教育委員会
馬場道跡(第5地点)	『道作1号墳(第2次)・馬場道跡第5地点(第1次・第2次)』 2011年 印旛郡市文化財センター
馬場道跡(第6・7地点)	『平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2014年 印西市教育委員会
馬場道跡(第8地点)	『平成25年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2015年 印西市教育委員会
馬場道跡(第9地点)	本報告書
7 榎木作遺跡	本報告書
8 平賀遺跡群	『平賀』 1985年 平賀遺跡群発掘調査会
9 萩原長原遺跡	『萩原長原遺跡 翁谷塚群』 2000年 印旛郡市文化財センター
10 天神台遺跡(第1～3地点)	『天神台遺跡発掘調査報告書』 1987年 印旛郡市文化財センター
天神台遺跡(第4地点)	『天神台・ヤジタ遺跡発掘調査報告書』 1991年 印旛郡市文化財センター
天神台遺跡(第5地点)	『天神台谷内遺跡』『印旛郡市文化財センター年報10～平成5年度-』 1994年 印旛郡市文化財センター 『印西市天神台遺跡』『印旛郡市文化財センター年報12～平成7年度-』 1997年 印旛郡市文化財センター
天神台遺跡(第6地点)	未報告
天神台遺跡(第7地点)	『天神台遺跡』 2000年 印旛郡市文化財センター
天神台遺跡(第8地点)	『印西市内遺跡発掘調査報告書-平成11年度・平成12年度-』 2001年 印西市教育委員会
天神台遺跡(第9地点)	『平成14年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2002年 印西市教育委員会
天神台遺跡(第10地点)	未報告
天神台遺跡(第11地点)	『天神台遺跡(第11地点) 発掘調査報告書-不特定遺跡発掘調査助成事業-』 2003年 印西市教育委員会
天神台遺跡(第12地点)	未報告
天神台遺跡(第13地点)	『平成15年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2004年 印西市教育委員会
天神台遺跡(第14・15地点)	『平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』 2014年 印西市教育委員会
11 船尾白幡遺跡	『千葉県ニュータウン埋蔵文化財調査報告書V』 1976年 千葉県文化財センター

- 11 船尾白幡遺跡
船尾白幡遺跡Ⅱ 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XVI-印西市船尾白幡遺跡-」 2004年 千葉県文化財センター
「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XVII-印西市船尾白幡遺跡Ⅱ-」 2005年 千葉県文化財センター
「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XVIII-本郷村角田台遺跡(弥生時代以降)-」 2006年 千葉県教育振興財団
- 13 井ノ崎台遺跡
井ノ崎台遺跡Ⅱ 「印旛村道山田平賀親子定地内埋蔵文化財調査報告書」 1994年 印旛郡市文化財センター
「井ノ崎台遺跡Ⅱ」 1995年 印旛郡市文化財センター
- 14 萩原株木遺跡 「萩原株木遺跡」 2000年 印旛郡市文化財センター
- 15 曾谷津遺跡 「印西市曾谷津遺跡」 2011年 千葉県教育振興財団
- 16 鳴神山遺跡 「千葉北葛地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡-」 1999年
「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XIV-印西市鳴神山遺跡Ⅱ 白井谷奥遺跡-」 2000年 千葉県文化財センター
- 17 武西近隣遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XXⅡ-印西市泉北側第1遺跡 大森野野道跡・野野野山手土手 武西近隣遺跡-」 2010年 千葉県教育振興財団
- 18 炭焼2号墳 「印旛村道瀬戸郷戸綴発掘調査報告書」 1986年 印旛郡市文化財センター
- 19 鎌島遺跡 「鎌島遺跡-聖堂迄電鉄塔建設に伴う埋蔵文化財調査-」 2009年 印旛郡市文化財センター
- 20 滝原1号墳 「印旛村道瀬戸郷戸綴発掘調査報告書」 1986年 印旛郡市文化財センター
- 21 前原1号墳 「印旛村道瀬戸郷戸綴発掘調査報告書」 1986年 印旛郡市文化財センター
- 22 ちばろく遺跡 「ちばろく遺跡」 1999年 印旛郡市文化財センター
- 23 古道遺跡 「印旛村道瀬戸郷戸綴発掘調査報告書」 1986年 印旛郡市文化財センター
- 24 中郷遺跡(第1・2地点) 「平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書」 2014年 印西市教育委員会
- 25 西根遺跡 「印西市西根遺跡-早道船橋戸総埋蔵文化財調査報告書-」 2005年 千葉県文化財センター
「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XV-印西市西根遺跡-」 2002年 千葉県文化財センター
「西根遺跡」 2000年 印旛郡市文化財センター
- 26 向新田遺跡 「平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書」 2014年 印西市教育委員会
「向新田遺跡第2地点」 2002年 印旛郡市文化財センター
「向新田遺跡第3地点」 2011年 印旛郡市文化財センター
「平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書」 2014年 印西市教育委員会
- 向新田遺跡(第2地点)
向新田遺跡(第3地点)
- 27 船尾町田遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」 1984年 千葉県文化財センター
- 28 古高浅沼古墳 「古高浅沼古墳発掘調査報告書」 1994年 印旛郡市文化財センター
- 29 式土込遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XX-印西市南西ヶ作遺跡・本郷村式土込遺跡-」 2008年 千葉県教育振興財団
- 30 向辺田遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XXI-印旛村向辺田遺跡-」 2009年 千葉県教育振興財団
- 31 小林遺跡 「小林遺跡発掘調査報告書-集落跡の調査-」 1987年 小林遺跡調査会
「小林古墳群遺跡」 1975年 小林古墳群発掘調査団
- 32 一本坂南遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-白井町一本坂南遺跡-」 1998年 千葉県文化財センター
- 33 泉北側第2遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X」 1991年 千葉県文化財センター
- 34 平台先遺跡 「平台先遺跡」 1973年 平台先遺跡発掘調査団
- 35 井の内内遺跡 「井の内内遺跡」 1979年 井の内内遺跡発掘調査団
- 36 油免遺跡(第2地点) 「油免遺跡(第2地点)-船越コミュニティセンター建設内埋蔵文化財調査報告書-」 2004年 印旛郡市文化財センター
- 37 立田台第2遺跡 「成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書4-印旛村立田台第2遺跡・本橋第2遺跡-」 2010年 千葉県教育振興財団
- 38 堀尻第2遺跡 「成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書2-印旛郡印旛村小原第1遺跡・小原第2遺跡・堀尻第2遺跡-」 2009年 千葉県教育振興財団
- 39 松山岡所遺跡 佐藤寛雅「松山岡所遺跡出土の古式須恵器について」『専修考古学』8号 2000年 専修大学考古学会
- 40 宮内遺跡 「宮内遺跡発掘調査報告書」 1994年 印旛郡市文化財センター
- 41 東遺跡(第2地点) 「東遺跡(第2地点) 駒込遺跡Ⅱ」 1999年 印旛郡市文化財センター
- 42 駒形北遺跡 「駒形北遺跡発掘調査報告書」 1993年 印旛郡市文化財センター
- 43 駒形北遺跡(第2地点) 「駒形北遺跡(第2地点)」 2001年 印旛郡市文化財センター
- 44 駒形北遺跡(第3地点) 「駒形北遺跡(第3地点)」 2010年 印旛郡市文化財センター
- 45 山田源島遺跡 「印旛村道山田平賀親子定地内埋蔵文化財調査報告書」 1994年 印旛郡市文化財センター
- 46 光明寺遺跡 「印旛村道山田平賀親子定地内埋蔵文化財調査報告書」 1994年 印旛郡市文化財センター
- 47 平賀細町遺跡 「平賀細町遺跡」 1996年 印旛郡市文化財センター
- 48 細町遺跡 「細町遺跡 天神遺跡」 2010年 印旛郡市文化財センター
- 49 細町遺跡 「細町遺跡 天神遺跡」 2010年 印旛郡市文化財センター
- 50 岩戸止台遺跡 「岩戸止台遺跡A地区・B地区発掘調査報告書」 1988年 印旛郡市文化財センター
- 47 鶴塚古墳 「下総鶴塚古墳の調査概報」 1973年 下総鶴塚古墳調査団
萩原忠一「鶴塚古墳」『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』 2003年 千葉県
白井久美子「古墳の探偵」『研究紀要27』 2012年 千葉県教育振興財団
- 48 吉高山王遺跡 「吉高山王遺跡」 1977年 吉高山王遺跡調査会
糸川道行「吉高山王遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』 2003年 千葉県
- 49 山田谷ヶ津遺跡 「山田谷ヶ津古墳調査報告書」 1996年 印旛郡市教育委員会
- 50 道作古墳群 「印西市の歴史」 新刊号 1997年 印西市
「道作古墳群」 2007年 印旛郡市文化財センター
「道作1号墳(第2次) 馬場遺跡第5地点(第1次・第2次)」 2011年 印旛郡市文化財センター
「平成17年度～平成24年度 印西市内遺跡発掘調査報告書」 2014年 印西市教育委員会
「印西市大森上宿古墳」『ふ5』 第5・6合併号 1974年 ふ5の会
森 耕一「印西市周辺貝石器使用古墳について」『印西市の歴史』第5号 1989年 印西市史編さん室
糸川道行「上宿古墳」『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』 2003年 千葉県
「平成19年度 印西市内遺跡発掘調査報告書 上宿古墳」 2008年 印西市教育委員会
森 耕一「印西市周辺貝石器使用古墳について」『印西市の歴史』第5号 1989年 印西市史編さん室
- 51 上宿古墳 「千葉県印旛郡印西市後地山古墳発掘調査報告」 1975年 後地山古墳発掘調査団
森 耕一「印西市周辺貝石器使用古墳について」『印西市の歴史』第5号 1989年 印西市史編さん室
- 52 大森古墳
- 53 後地山2号墳

第2章 グミ作遺跡 (第2地点)

1. 遺跡の位置 (第3図)

本遺跡は市域の東部、台地が東の印旛沼に向かって長くのびる基部付近、印西市瀬戸地区に所在する。付近は開析された小支谷が南北両方向から深く入り込み、樹枝状の台地を形成している。そのような台地の一部、西印旛沼から北に約500m入り込む支谷の最深部、その東側台地上に本遺跡は立地する。

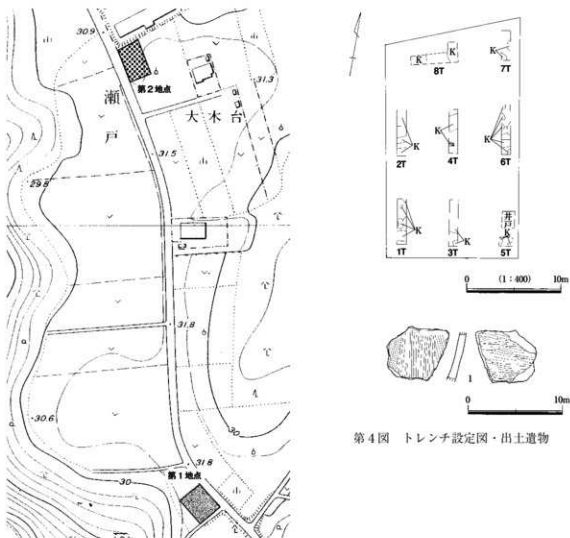
2. 調査の概要と成果 (第4図 図版1・3)

今回の調査地点は台地中央の比較的平坦な箇所である。調査区内に幅1.0m、長さ1.5~5.0mのトレンチを南北方向に6本、東西方向に2本の計8本設定した。しかし攪乱が著しく、トレンチ内から遺構を検出することはできなかった。

出土遺物は古墳時代前期と思われる土師器甕の破片や、掲載外とした近世瓦の破片などであった。

第1表 グミ作遺跡 (第2地点) 遺物観察表

番号	種別・器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	外面刷毛ナデ。内面ヘラミガキ。	赤色粒子、白色粒子、石英・長石多量。明褐色。焼成は良好。	胴部片 6T出土



第3図 グミ作遺跡 (第2地点) 位置図

第4図 トレンチ設定図・出土遺物

第3章 アラク山遺跡

1. 遺跡の位置 (第5図)

アラク山遺跡は手賀沼水系の亀成川、その南岸河口部付近の台地上に立地する。遺跡の北には亀成川によって開析された小さな谷津、西には南の泉北側第2遺跡付近まで伸びる深い支谷が見られ、その位置から泉北側第2遺跡と本遺跡は同一支谷内の隣接遺跡と考えられる。遺跡が所在する台地は東西約300m、南北約400mで、標高は23mである。

2. 調査の概要と成果 (第6図 図版1・3)

東西27m、南北18mの調査範囲に幅20m、長さ3.0~8.0mのトレンチを9本設定した。設定したトレンチからは調査区北東側が高く、西側と南西側に向かって台地が緩やかに傾斜することが確認できた。その高低差は最大で30cm程である。ただトレンチ内は攪乱がひどく、遺構を確認することはできなかった。

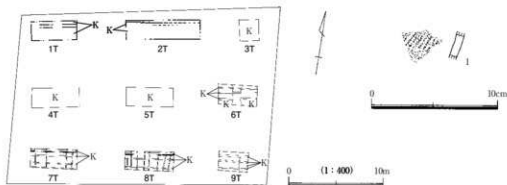
調査の結果、縄文時代後期ではないかと思われる土器片や奈良・平安時代の土師器甕の破片が出土した。

第2表 アラク山遺跡遺物観察表

番号	種別・器種	手法上の特徴	備考
1	縄文土器	単節の斜縄文LRが施文される胴部破片。白色粒子・長石を含む。明褐色。	後期 6T出土



第5図 アラク山遺跡位置図

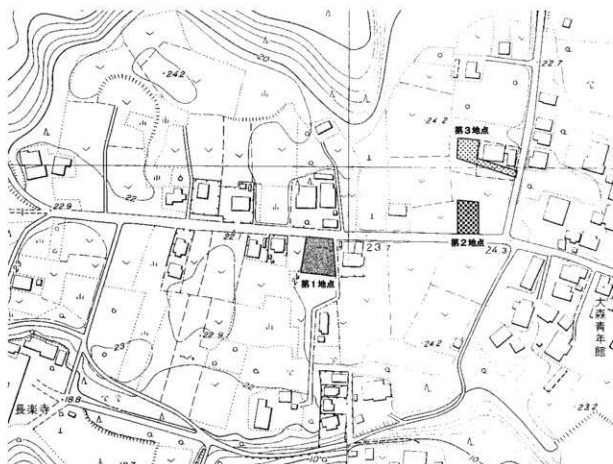


第6図 トレンチ設定図、出土遺物

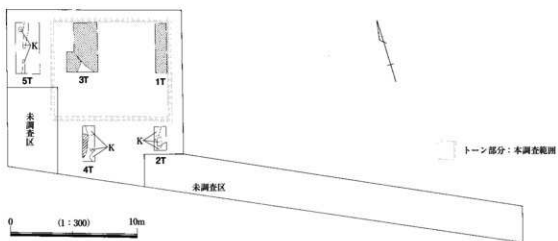
第4章 大畑遺跡 (第3地点)

1. 遺跡の位置 (第7図)

大畑遺跡は利根川と亀成川とに挟まれた東西に長い台地上に位置し、亀成川河口まで1.5Km程の地点である。北には利根川から伸びる深い谷、南には急峻な崖が迫り台地は幅が約25mと狭くなっている。台地の標高は約24mで遺跡の北側は谷津頭となっている。今回の調査地点は遺跡中央のやや北側にあたり、同一台地上の北西には森内古墳、北東約70mには上宿遺跡と近接地には複数の終末期古墳が分布する。



第7図 大畑遺跡 (第3地点) 位置図

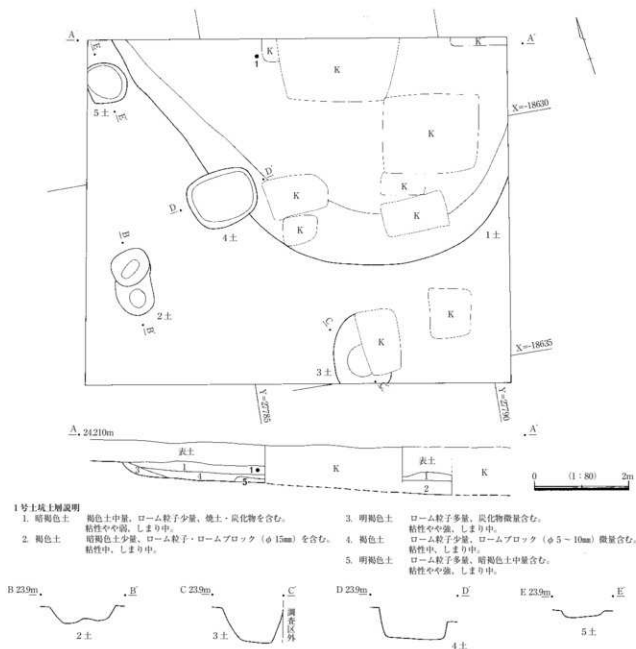


第8図 トレンチ設定図

2. 確認調査の概要と成果 (第8図 図版1)

今回の調査区よりも西の第1地点で縄文時代中期、弥生時代後期、それに9世紀の竪穴住居跡が各1軒、南近接地の第2地点では10世紀代の住居跡1軒が確認されている。それらの成果から本遺跡では縄文時代、弥生時代、そして平安時代に集落が営まれていたことが判明している。

第3地点は西側の確認・本調査区、その東側、長さ27m程のベルト状の未調査区からなる。確認調査地点は東西・南北14m程の範囲で、この内部に5か所のトレンチを設定した。トレンチの幅は1.0~2.5m、長さは2.0~4.0mである。北側の1トレンチでは遺構の存在を示す堆積土、その西の3トレンチでは楕円形の掘り込み2基が確認された。検出された遺構プランや過去の調査成果などから、同地点には弥生時代の住居跡、あるいは土坑が存在するのではないかと推測された。それが単独なのか或いは複数なのか、そして、トレンチ内で検出された遺構と同一なのか別遺構なのか、確認調査では判然としなかった点が残った。南の4トレンチでは中・近世と思われる土坑が1基確認されたが、他の遺構を発見することができなかった。



確認調査後、1・3トレンチで検出された遺構を把握するために、同地点を中心に東西90m、南北7.3mの範囲で本調査を実施することとなった。

3. 検出された遺構と遺物

1号土坑（第9・10図 図版1・4）

本調査の結果、3トレンチ内の楕円形の掘り込みは1トレンチ内の遺構と同一であること、検出された壁面から非常に大きな掘り込みであることが判明した。平面形態や出土遺物から弥生時代の住居跡の可能性は低く、他の性格、例えば古代の土坑なのではと想定された。平面は楕円形と思われ、現存する長軸は6.5m、短軸は5.8mである。底面までの深さは40cmを測り、この時期の土坑に比べ非常に大きく台地整形区などの可能性も残る。本遺構からは須恵器の坏や甕、土玉などが出土する。

2号土坑（第9・10図 図版1・4）

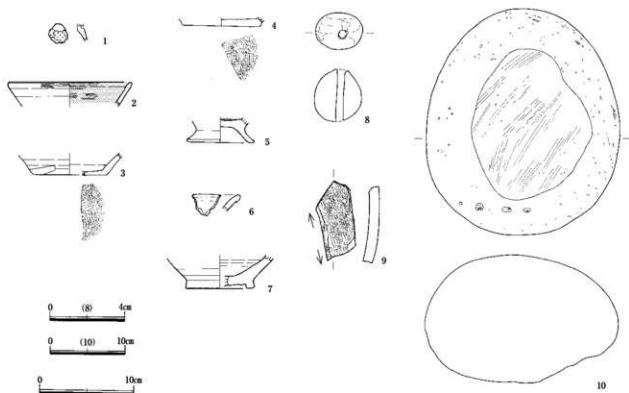
2号土坑は、1号土坑の南西に位置する不整な楕円形の土坑である。南北に掘方の重複が見られ、長軸が1.40m、短軸が72cm、深さが24～30cmである。本遺構からは底石のような大きな石が出土する。

3号土坑（第9・10図 図版4）

調査区南辺から検出された土坑である。平面は南北に長い楕円形と推測され、残存する長軸は1.58m、短軸は1.10m、深さは73cmである。

4号土坑（第9図）

1号土坑の西側縁辺部と切り合う土坑である。平面は東西にやや長めの整った楕円形で、長軸1.45m、短軸1.18m、深さ65cmを測る。



第10図 出土遺物

5号土坑（第9図）

調査区北西隅に位置するのが5号土坑である。平面は不整な円形で長軸92cm、短軸90cm、深さ12cm。

なお3～5号土坑とした3基は同一ライン上に位置し、平面形態や規模に差異が見られるものの、建物跡となる可能性も否定できない。ここでは調査成果に従い、一応個別遺構として掲載した。

図示した遺物は古墳時代前期と思われる土師器の器台や平安時代の土師器・須恵器、それに土玉などである。その他に縄文土器や灰陶軸器の小片、中世常滑窯の胴部甍片、近世陶器・瓦なども出土している。

第3表 大畑遺跡（第3地点）遺物観察表

番号	種別・器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器 器台	口径 — 器高 — 底径 —	外面ヘラケズリ。内面ナデ。脚部内面に赤彩附着。	赤色粒子、白色粒子多量含。にぶい黄褐色。焼成は良好。	脚部片 外面赤彩 1出土
2	土師器 環	口径 (13.2) 器高 (2.5) 底径 —	ロクロナデ。外面口唇部・内面ヘラミガキ。	赤色粒子、白色粒子、石英・長石多量含。にぶい黄褐色。焼成は良好。	口縁部片 内面黒色処理 2出土
3	須恵器 環	口径 — 器高 (2.3) 底径 (7.6)	ロクロナデ。体部下端手持ちヘラケズリ。底部外面手持ちヘラケズリ。	白色粒子、石英・長石多量含。褐灰色。焼成は良好。	体部～底部1/4 新治産 表採
4	須恵器 環	口径 — 器高 (1.0) 底径 (8.4)	ロクロナデ。底部外面手持ちヘラケズリ。	黒色粒子、雲母多量含。灰黄色。焼成は良好。	底部1/4 新治産 1出土
5	土師器 高台付碗	口径 — 器高 (2.6) 底径 (7.2)	坏部内面ヘラミガキ。高台貼付後ナデ。体部の破断面は再加工。	白色粒子、石英・長石多量、赤色粒子少量、白色針状物微量含。外面黄褐色。焼成は良好。	高台部1/4弱 内面黒色処理 3出土
6	須恵器 甍	口径 — 器高 — 底径 —	口縁部ロクロナデ。	石英・長石少量含。黒灰黄色。焼成は良好。	口縁部片 在地産 1出土
7	須恵器 長頸瓶	口径 — 器高 (3.5) 底径 (7.4)	内外面ロクロナデ。体部外面下部回転ヘラケズリ。高台部ナデ。内面下半から底部に自然軸附着。	白色粒子、黒色粒子少量含。暗灰黄色。焼成は良好。	底部1/2弱 東海産 表採
8	土製品 丸玉	長さ1.95 幅2.5 厚さ2.8 孔径 上φ0.4 下φ0.35		赤色粒子多量、白色粒子少量含。にぶい褐色。焼成は良好。	完存 1出土
9	須恵器 甍 (転用砥石)	長さ 8.4 幅 4.3 厚さ 1.1 重さ 51.2g	外面平行タタキ。内面当具痕をナデ消す。使用面1面。	白色粒子多量、黒色粒子少量含。暗灰黄色。焼成は良好。緻密で堅固。	胴部片 新治産 表採
10	礫	長さ29.7 幅25.4 厚さ (17.0) 重さ19.35Kg 石材は安山岩。2出土。		上面は平滑、裏面には剥離痕跡を残す。	

第5章 鳴神山遺跡（第2地点）

1. 遺跡の位置（第11図）

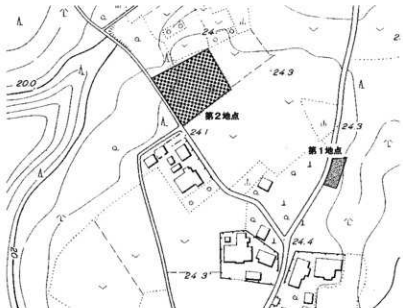
鳴神山遺跡は印旛沼の北岸、標高24～25mの戸神川西岸の台地上に立地する。河口部に位置する本遺跡は昭和63年以降度々調査が実施され、台地東側縁辺部の集落密集地区を中心に台地全面に竪穴住居跡群が分布する印旛沼北岸における奈良・平安時代の大集落であることが判明している。今回の調査地点は西の向新田遺跡との間に挟まれた支谷奥部で、南から侵入した谷が調査区の南西側で北西に大きく屈曲する地点である。

2. 調査の概要と成果 (第12図 図版2・3)

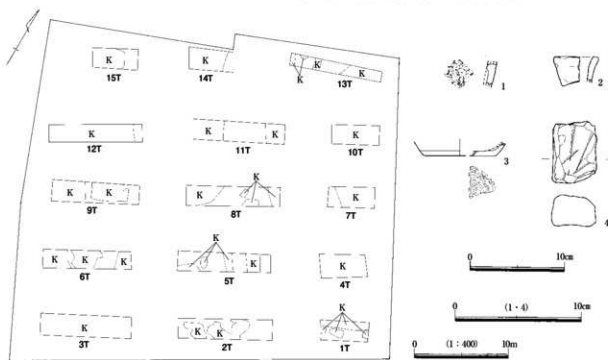
本調査地点の南東約100mの第1地点が平成25年度に調査され、奈良・平安時代の住居跡1軒が検出されている。同地点は鳴神山遺跡のなかでは西側、白井谷奥遺跡の南に位置し、竪穴住居跡の分布密度が比較的低い地点である。今回の調査地点も第1地点に近接するので、類似した遺構検出状況と予測されている。

東西40m、南北35mの調査区内に幅1.0~2.0m、長さ4.5~10.0mのトレンチを北東から南西方向に向け合計15本設定したが、いずれのトレンチからも、遺構は検出されなかった。

出土したのは土師器や砥石の破片などで、その他に縄文時代前期前半と思われる小破片、奈良・平安時代の土師器甕の口縁部や近世瓦の破片が認められた。



第11図 鳴神山遺跡(第2地点)位置図



第12図 トレンチ設定図・出土遺物

第4表 鳴神山遺跡(第2地点)遺物観察表

番号	種別・器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	縄文土器		結節縄文が施文される。繊維・白色粒子を含む。		前期 3T出土

2	須恵器鉢類か	口径— 器高— 底径—	— — —	ロクロナデ。口径部は平坦面を形成する。	黒色粒子微量含。暗灰黄色。焼成は良好。緻密。	口径部片 9T出土
3	土師器杯	口径— 器高(1.4) 底径(7.6)	— — —	ロクロナデ。体部下端から底部回転ヘラケズリ。	赤色粒子多量、白色粒子少量含。にぶい黄褐色。焼成は良好。	体部～底部 1/6 14T出土
4	石製品砥石	長さ4.9 幅3.5 厚さ2.4 重さ67.1g	—	完形 5面に刃物痕。石材は安山岩。表採。		

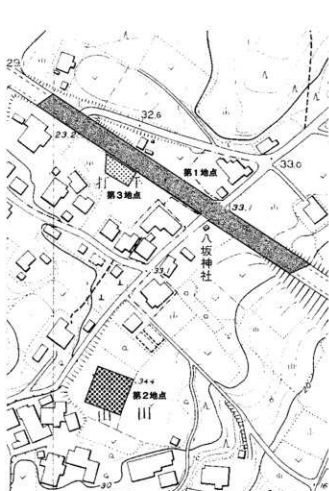
第6章 打手第2遺跡（第3地点）

1. 遺跡の位置（第13図）

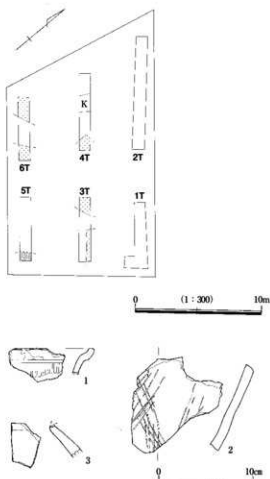
打手第2遺跡の所在する印西市山田地区は、南北2方向から迫る印旛沼の支谷によって無数の樹枝状台地が形成される。そのような台地の一つ、東印旛沼に向かって南東方向にのびる長い台地の中程、東西300m・南北250mの台地平坦面上に本地点は立地する。台地の標高は32m、直下には開析された谷津頭が迫る。

2. 調査の概要と成果（第14図 図版2・3）

打手第2遺跡は、平成2年に台地中央部を東西のベルト状に調査している。その折には古墳時代後期～奈良・平安時代の堅穴住居跡が21軒、中世の台地整形区が1か所、掘立柱建物跡1棟などが確認された。台地南側の第2地点を調査した平成25年にも同じく古墳時代後期の住居跡が1軒、奈良・平安時代の住居跡2軒が確認された。こうした調査結果から本遺跡は、古墳時代後期から中世にかけての複合集落であることが明らかとなっている。今回の調査地点は、第1地点の中央南隣接地に相当する。



第13図 打手第2遺跡（第3地点）位置図



第14図 トレンチ設定図・出土遺物

調査区内に平行するかたちで、東西に長いトレンチを6本設定した。トレンチの幅は0.9m、長さは5.0～9.0mである。遺構が検出されたのは南側の4か所のトレンチである。南東部の5トレンチからは縄文時代の堅穴住居跡1軒、その西の6トレンチからは奈良・平安時代の住居跡2軒、そして北側の3トレンチで奈良・平安時代の住居跡2軒、4トレンチでも同時期の住居跡1軒が確認された。検出された住居跡総数は6棟である。

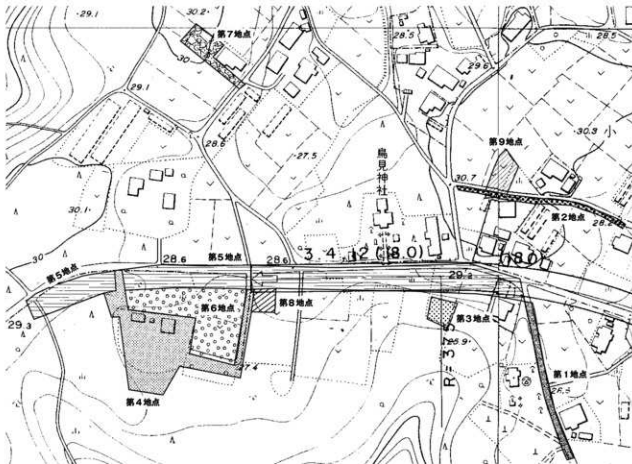
検出された遺構数に比べ出土遺物は少なく、小破片が多くを占める。平安時代の土師器・須恵器の破片、中世陶器類などである。

第5表 打手第2遺跡（第3地点）遺物観察表

番号	種別・器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	須恵器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	口縁部ロクロナデ。胴部外面は縦位の平行タタキ。	赤色粒子多量、白色粒・石英・長石・雲母少量含。灰黄色。焼成は良好。	口縁部片 在地産 6T出土
2	土師器 甕 (転用砥石)	長さ 10.1 幅 9.7 厚さ 1.0 重さ 110.1g	外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。外面に工具の使用痕跡を残す。	赤色粒子・石英・長石多量、白色粒子少量含。褐色。焼成は良好。	胴部片 5T出土
3	陶器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	頸部ナデ。胴部内外面ナデ。	外面暗赤灰色、内面暗灰黄色。焼成は良好。	頸部片 常滑産 6T出土

第7章 馬場遺跡（第9地点）

1. 遺跡の位置（第15図）



第15図 馬場遺跡（第9地点）位置図

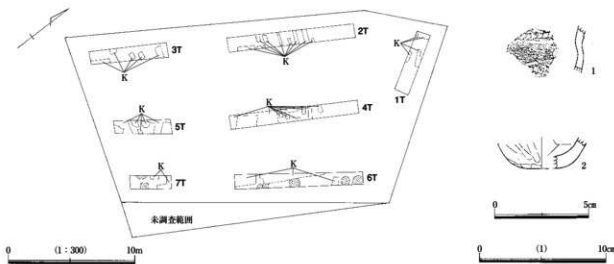
本遺跡は市域北部の小林地区、利根川南岸の標高30mの台地上に位置する。眼下には利根川の氾濫原が広がり、台地西側には長さ約25mの細長い谷津が南西の遺作古墳群向けのびる。東も駒形北遺跡との境となる小さな谷津が走り、両支谷に挟まれた東西約200m、南北約300mの台地平坦面上に本遺跡は立地する。

2. 調査の概要と成果 (第16図 図版2・3)

馬場遺跡の調査は台地中央の第5地点を中心に、計8地点が実施されている。台地中央の第5地点では縄文時代後期と奈良・平安時代の住居跡が確認され、その南の第8地点でも台付土器など多くの縄文土器が出土した。台地北西部、遺作古墳群よりの第7地点では古墳時代後期の住居跡、東の第1地点では古墳時代後期から奈良時代にかけての住居跡が発見されているが、中央の第2・3地点では奈良・平安時代の住居跡群が大平であった。こうした状況から本台地上は古墳時代後期以降、縁辺から中央に向かって集落が拡大した可能性が窺える。

第2地点北の本調査地点では遺構検出のために、幅1.0m、長さ35-10.0mのトレンチ7本を設けた。しかしトレンチ内は攪乱が著しく、遺構が検出されたのは東側の2か所、6・7トレンチのみである。ここからは、奈良・平安時代と思われる7基の土坑が検出された。

掲載遺物は縄文時代後期後葉の土器片や土師器のミニチュア土器などで、この他に奈良・平安時代の土師器破の破片なども出土する。



第16図 トレンチ設定図・出土遺物

第6表 馬場遺跡(第9地点)遺物観察表

番号	種別・器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	縄文土器	横位に押し引きが施文され、弧状の区画内には縄文が充填される。石英・砂粒少量含。			胴部片 5 T出土
2	ミニチュア土器	口径 — 器高 (1.6) 底径 (1.6)	体部内外面ヘラナア。	白色粒子多量。赤色粒子、石英・長石少量。にぶい褐色。焼成は良好。	体部一底部片 7 T出土

第8章 榎木作遺跡

1. 遺跡の位置 (第17図)

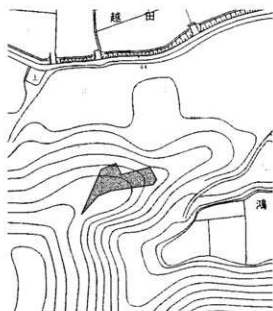
榎木作遺跡は東西の印旛沼を繋ぐ、印旛捷水路の南端部に位置する。付近は水路や建物建設に伴い、複数の箇所で大規模な土地の改変が行われている。本遺跡が所在する台地も北端部が大きく欠損し台地は細尾根状となる。台地の標高は20~23mで、東の谷は1.2km程北上し、東印旛沼との分水嶺となる支谷最深部にいたる。この付近では、沼に面する南側斜面より北側支谷の浸食が顕著である。

2. 調査の概要と成果 (第18図 図版3・4)

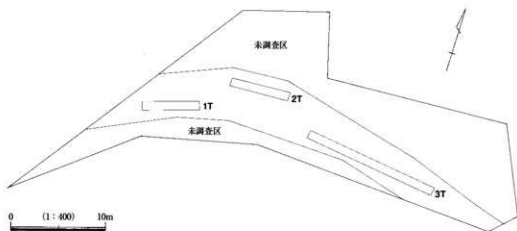
東西方向にのびる事業地は南北両方向が急斜面のため、調査可能範囲に比べ実際の調査範囲は幅0.6m、長さ4.5mと狭いものであった。その内部に幅1.0m、長さ6.0~15.0mのトレンチを東西方向に、3本設定した。表土から遺構確認面までの深さは1トレンチ西側で1.0m、3トレンチ西・中央で40cm、東で10~20cmと、削平のため各地点で大きく異なる。トレンチ内に顕著な攪乱は認められなかったが、遺構は検出されなかった。そこからは奈良・平安時代の土師器小片や貝類が出土した。貝は2枚貝のアカガイなどである。

貝類はすべて2トレンチからの出土である。同トレンチは遺構確認面までの深さが0.5~1.2mと、1・3トレンチに比べ内部での高低差が大きい。しかも過去に台地の北側が削平されていることがわかっており、遺構も確認できない。こうした状況から2トレンチから出土した貝類は遺構に伴う遺物群ではなく、2次堆積層中の貝類の可能性があると判断された。

付近に貝化石の堆積層が存在するので、今回出土したのもこれらの一部ではないかと思われる。出土した多くの貝は表面に砂が付着しており、砂層付近に存在していたことの証ではないだろうか。



第17図 榎木作遺跡位置図



第18図 トレンチ設定図

第9章 まとめ

印旛沼北岸では古墳時代前期の集落跡が西側が多く、中期が東側と、時代によって集落の分布状況が著しく異なることがこれまでの調査状況から判明している。この現象からは、前期から中期にかけ地域の核が西から東に大きく移動した可能性が窺える。その変化が居住域のみなのか、あるいは墓域を含めた北岸地域全体での動向なのか、それを古墳の分布から確認してみたい。

北岸における前期古墳の調査事例は少なく、手賀沼南岸に位置する柏市北ノ作1号墳・2号墳が最も有名である。1号墳は突出部付方墳ないしは前方後方墳、2号墳は前方後方墳で共に下総地域西部において前期前半代の代表的な古墳である。これに後続するのが、白井市平塚に所在する小森瓢塚古墳である。全長52mの前方後方墳で、この時期の下総西部では最大規模の古墳である。その瓢塚古墳から直線距離で南に約2km、神崎川流域の白井市神々宮前遺跡B地点でも小規模な方墳と方形周溝墓4基が、集落に隣接して確認されている。さらに下流、印旛沼との合流部印西市松崎1遺跡でも7基の方形周溝墓（方墳）が調査されている。印旛沼北岸では手賀沼に近い西部域に、前期の古墳や方形周溝墓が数多く分布する状況が見られる。

古墳が出現する以前、この地域は墓制の中心が土器棺墓であった。そこに方墳という新たな墓制が出現したのは社会の枠組みが大きく変化したこと起因すると考えられている。それに関わったのが手賀沼沿岸の拠点集落柏市戸張一番割遺跡や呼塚遺跡とされる。このような下総西部の大集落との関係で、北岸西部域に新たな墓制が導入されたと考えられるのが自然であろう。そのように推測しなければ地区西側の神崎川周辺や手賀沼水系の亀成川流域に前期の大規模集落が登場したり、北陸を含めた他地域産の外來系土器が大量に出土することが理解できない。古墳時代前期、この時期の印旛沼北岸は手賀沼を中心とする下総西部との関係が非常に濃密な時期であったと集落・古墳から考えられる。

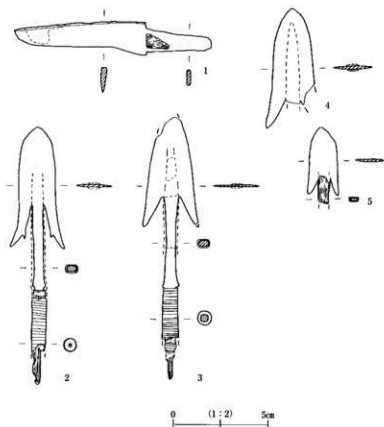
しかしその後、様相は一変する。手賀沼周辺では北岸に墳丘長63mの前方後円墳我孫子市水神山古墳が築造されるが、印旛沼周辺では、中期初頭に、沼と古鬼怒川の合流部「香取海」を臨む台地上に、大型の円墳印西市鶴塚古墳が登場するのである。印旛沼北岸では鶴塚古墳を含め吉高浅間古墳、立田台2号墳など主要な中期古墳はいずれも沼を眼下に望む台地を占地する円墳である。最古の鶴塚古墳が最北端、他の2基がそれよりも沼の奥部、下総地域有数の古墳群公津原古墳群の対岸付近と、前期古墳に比べより東側に位置する。北の内海「香取海」を意識した地点を、占地するようである。

鶴塚古墳出土の埴輪も上毛野や常陸の中小規模古墳に見られるものとの類似性が、指摘されている。その点からも「香取海」という流通圏の幕開けといえよう。それが、古墳時代前期と中期の集落分布の相違として現われたのであろうか。

なお吉高浅間古墳、立田台2号墳の他にも、宮内遺跡の南西400mに位置する天王前遺跡（第2図54）で中期古墳が造墓された可能性が高い。中根地区の同遺跡では道路部分の調査区から2基の古墳が検出された。2基は共に円墳と考えられ、支谷奥部の1号墳は主体部が切石の箱式石棺、その東側2号墳は木棺直葬である。問題は2号墳で、埋葬施設からは鉄鎌4点と全長105mmの小型の刀子1点が出土した。鉄鎌は短頭鎌を中心とし、一部長頭鎌も見られる。1点は鎌身部が二重逆刺の特徴的なもので、鉄鎌の組成からは吉高浅間古墳に近い時期の所産と推測される。天王前遺跡2号墳を含め4基の中期古墳が、北岸東部で確認できる。古墳が広がる吉高・小林地区からは中期集落も検出され、平賀地区には中核的な集落も存在する。

以上のことから、古墳時代中期は北岸の東部に集落・墳墓が集中すると考えられる。居住域・墓域を含め地域全体を含む大規模な変化が、前期から中期にかけ存在したものと想像される。それが地域に根差した在地的要因に基づくものなのか、あるいは外的要因なのかは今後の調査成果によって明らかになるものと考え

る。ただ、劇的な現象であることから広範囲な社会的変化や、新たな勢力の存在抜きには現われない現象ではないかと想像される。



第19図 天王前遺跡（第2次）2号墳出土遺物

参考文献

- 未武直則他 「神々廻跡群-船橋カントリー倶楽部造成地内埋蔵文化財調査報告書-」
1988年 印旛郡市文化財センター
- 渋谷健司 「天王前遺跡（第2次）-本壱村道下鳥合・天王前線改良工事に伴う埋蔵文化財調査-」
1999年 印旛郡市文化財センター
- 内田龍哉他 「松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書2-印西市松崎1遺跡-」
2004年 千葉県文化財センター
- 白井市郷土資料館 「平成24年度企画展 地中の秘密-足もとに眠る白井の歴史-」解説資料 2012年
- 白井久美子 「第2章 古墳の様相」『研究紀要27』2012年 千葉県教育振興財団
- 小林孝秀 「房総の古墳編年-下総を中心として-」
『第20回大会 シンポジウム 地域編年から考える-部分から全体へ-』2015年 東北・関東前方後円墳研究会

写 真 图 版



グミ作遺跡 (第2地点) 1トレンチ(南から)



2トレンチ (南から)



3トレンチ (南から)



8トレンチ (東から)



アラク山遺跡 1トレンチ (西から)



2トレンチ (東から)



3トレンチ (東から)



9トレンチ (東から)



大畑遺跡 (第3地点) 調査前風景



3トレンチ (北から)



5トレンチ (北から)



本調査範囲 (西から)



1号土坑 Aセクション (南西から)



1号土坑 完掘 (南東から)



2号土坑 完掘 (西から)



鳴神山遺跡（第2地点）調査前風景



2トレンチ（北東から）



5トレンチ（南西から）



6トレンチ（北東から）



7トレンチ（南西から）



8トレンチ（北東から）



11トレンチ（南西から）



13トレンチ（南西から）



打手第2遺跡（第3地点）調査前風景



3トレンチ（南東から）



4トレンチ（南東から）



5トレンチ（南東から）



6トレンチ（南東から）



馬場遺跡（第9地点）調査前風景



2トレンチ（南から）



3トレンチ (南から)



4トレンチ (南から)



5トレンチ (南から)



6トレンチ (南から)



7トレンチ (南から)



榎木作遺跡 調査前風景



1トレンチ (東から)



2トレンチ (西から)



3トレンチ (東から)



1

グミ作遺跡 (第2地点)



1

アラク山遺跡



1



2

馬場遺跡 (第9地点)



1



2



3



4

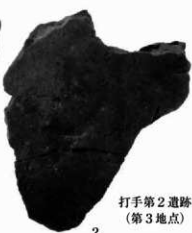
鳴神山遺跡 (第2地点)



1



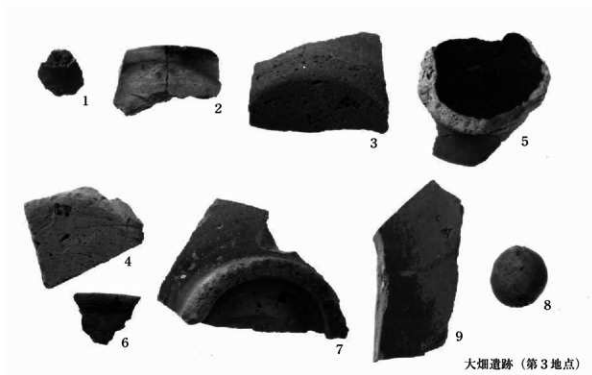
3



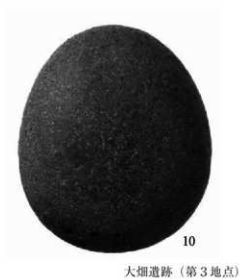
2

打手第2遺跡 (第3地点)

出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



榎木作遺跡の貝類

出土遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	へいせい27ねんどうしんざいしんいせいきほくつちよきほうこくしょ							
著者名	平成27年度 伊西市内遺跡発掘調査報告書							
編者名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小坂美知枝							
編集機関	公益財団法人 伊藤郡市文化財センター							
編集機関所在地	〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL.043-484-0126							
発行年月日	2017年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	コード		ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査理由
	市町村	遺跡						
くみきくいせき (だい2ちてん) タリ舟遺跡 (第2地点)	12231	09-097	ちばけんいんざいしんあざ おおきだい555ばん29 千葉県伊西市藤戸字 大木台555番29	33°46'42"	140°12'18"	2015年4月16日～2015 年4月17日	確認調査 上層35.7m /350.37㎡	個人住宅 建築
あらくやまいせき アラク山遺跡	12231	09-098	ちばけんいんざいしんかみあざ あらく462ばんのいちぶ 千葉県伊西市敷原字 アラク462番の 一部	33°49'22"	140°8'6"	2015年5月22日	確認調査 上層61m /500㎡	個人住宅 建築
おおはたけいせき (だい3ちてん) 大畑遺跡 (第3地点)	12231	09-099	ちばけんいんざいしんおもしろあざま はた2004ばんり、2000ばん5のいちぶ 千葉県伊西市大森字面積2000番9、 2000番5の 一部	33°49'54"	140°8'22"	2015年6月22日 / 2015 年7月13日～2015年7月 24日	確認調査 上層25.75m /268.43㎡ 本調査 上層63㎡	個人住宅 建築
なるかみやまいせき (だい2ちてん) 嶋神山遺跡 (第2地点)	12231	09-100	ちばけんいんざいしんかみ1037の1 千葉県伊西市戸種1037-1	33°47'25"	140°6'55"	2015年9月24日～2015 年9月28日	確認調査 上層240㎡ /1404㎡	宅地造成
うちでだいにいせき (だい3ちてん) 打子第2遺跡 (第3地点)	12231	09-101	ちばけんいんざいしんやまだあざ うちで315ばん1 千葉県伊西市山田字 打子315番1	33°46'14"	140°14'3"	2015年10月22日	確認調査 上層36.5m /209.88㎡	個人住宅 建築
ばいせいせき (だい9ちてん) 馬場遺跡 (第9地点)	12231	09-102	ちばけんいんざいしんこぼやしあざ はなき2632ばん 千葉県伊西市小林字 花2632番	33°49'50"	140°11'3"	2015年11月26日	確認調査 上層49㎡ /314㎡	個人住宅 建築
えのききくいせき 榎木舟遺跡	12231	09-103	ちばけんいんざいしんせとあざこうのす 1846ばんのいちぶ、1841ばんのいちぶ 千葉県伊西市藤戸字溝原 1840番の 一部、1841番の 一部	33°46'6"	140°13'22"	2016年2月21日	確認調査 上層28㎡ /37.87㎡	太陽光 発電施設 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
くみきくいせき (だい2ちてん) タリ舟遺跡 (第2地点)	仮築地	古墳時代、近世	なし	古墳時代前期土師器 近世瓦片				
あらくやまいせき アラク山遺跡	仮築地	縄文時代、奈良・平安時代	なし	縄文時代前期土師器 奈良・平安時代土師器				
おおはたけいせき (だい3ちてん) 大畑遺跡 (第3地点)	築墓跡	古墳時代、奈良・平安時代、中・近世	奈良・平安時代土坑5基 中・近世土坑1基	古墳時代後期土師器 奈良・平安時代土師器、須恵器、土玉、 石製品 中・近世陶器				
なるかみやまいせき (だい2ちてん) 嶋神山遺跡 (第2地点)	仮築地・ 築墓跡	縄文時代、奈良・平安時代	なし	縄文時代前期土師器 奈良・平安時代土師器、須恵器、麻石				
うちでだいにいせき (だい3ちてん) 打子第2遺跡 (第3地点)	仮築地・ 築墓跡	縄文時代、奈良・平安時代、中世	縄文時代後期土師器1軒 奈良・平安時代後期土師器5軒	縄文土器 奈良・平安時代土師器、須恵器、 古墳時代土師器				
ばいせいせき (だい9ちてん) 馬場遺跡 (第9地点)	築墓跡	縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代	奈良・平安時代土坑7基	縄文土器 古墳時代土師器 奈良・平安時代土師器				
えのききくいせき 榎木舟遺跡	仮築地	奈良・平安時代	なし	奈良・平安時代土師器				

平成27年度

伊西市内遺跡発掘調査報告書

平成29年3月22日 印刷

平成29年3月28日 発行

編 集 公益財団法人伊藤郡市文化財センター

千葉県佐倉市春路1丁目1番地4

発 行 伊西市教育委員会

千葉県伊西市大森2364-2

印 刷 株式会社 エリート情報社 [印刷出版局]

千葉県成田市東和田415-10